

## Inferior の実行の記録と再⌘

いくつかの OS ではレコードすることによって⌘の実行ができます。

```
record <method>
```

メソッドを指⌘してレコードします。メソッドは⌘のとおりです。

- full: GDB ソフトウェアによる⌘なレコードです。
- trace <format>: ハードウェア⌘によるレコードです。Intel プロセッサでサポートされます。データはリングバッファに⌘き込まれるので限⌘な巻き戻しのみ可能です。フォーマットは⌘のとおりです。
  - ▶ bts: Branch Trace Store。
  - ▶ pt: Intel Processor Trace。実行トレースを圧縮して保⌘します。

record コマンドを⌘うにはプログラムを実行しておく必要があります。

ノンストップモードまたは⌘期実行モードでは full はサポートされません。

```
record stop
```

レコードを停⌘します。ログはすべて⌘され、Inferior は⌘了するか⌘⌘⌘のままになります。

リプレイモード中にこれを発行するとその⌘から⌘のデバッグに⌘します。

```
record goto 'begin|start|end'|<n>
```

指⌘した⌘に戻ります。begin と start は⌘じ⌘です。n は n ⌘目の⌘です。

```
record save <filename>
```

レコードを保⌘します。

```
record restore <filename>
```

ファイル⌘から実行ログをリストアします。save で保⌘したものを読みます。

```
set record full insn-number-max <limit>|'unlimited'
```

⌘大のレコード⌘を設⌘できます。デフォルトでは 200000 です。レコードが⌘大⌘に⌘すると、⌘初⌘の⌘から⌘に⌘しながらレコードが⌘みます。limit に 0 または unlimited が設⌘された⌘、⌘は⌘されません。

```
set record full stop-at-limit 'on|off'
```

レコードが⌘大⌘に⌘したときに停⌘して続行するかどうかを⌘ねます。

```
set record full memory-query 'on|off'
```

GDB が full のレコードをするとき、⌘によって⌘き起こされたメモリ変更を記録できない⌘の⌘を⌘します。on の⌘にはどうするかを⌘ね、off の⌘には⌘します。

```
set record btrace replay-memory-access 'read-only|read-write'
```

リプレイ中にメモリにアクセスする⌘の btrace レコードメソッドの⌘を⌘します。read-only の⌘、GDB は readonly メモリへのアクセスのみを許可します。read-write の⌘、GDB は readonly および readwrite メモリへのアクセスを許可します。

```
set record btrace cpu <identifier>
```

プロセッサ・エラッタを⌘するために⌘用するプロセッサを設⌘します。プロセッサ・エラッタとは、設計や⌘に起⌘するプロセッサ⌘の血管のことを指します。

⌘の identifier は CPU ⌘⌘で vendor:processor identifier という形か none, auto が指⌘できます。

```
set record btrace bts buffer-size <size>|'unlimited'
```

BTS 形式でのブランチトレースに要求されるリングバッファのサイズを指⌘します。デフォ

ルトは 64KB です。

```
set record btrace pt buffer-size <size>|'unlimited'
```

IPT でのリングバッファのサイズを設定します。デフォルトは 16KB です。

```
info record
```

レコード方式によってさまざまな計を表示します。

```
record delete
```

レコード大賞が過去で実行された、それ降のログを、現在のアドレスからレコードを再開します。

```
record instruction-history
```

レコードされたログからをアセンブルします。

```
set record instruction-history-size <size>|'unlimited'
```

record instruction-history で表示されるの数を設定します。

```
record function-call-history
```

関数単位で実行履歴を表示します。

```
set record function-call-history-size <size>|'unlimited'
```

record function-call-history で表示される数を設定します。